



高品質なグループITインフラを整備し ITインフラ運用業務を5人に集約

NSSOLのITアウトソーシングサービス「NSFITOS」を採用

背景

グループ内のシナジーを強化するため、事業会社の部門ごとに構築・運用していたサーバー環境をグループ共通のデータセンターに集約して仮想化するとともに、運用をアウトソーシングして効率化を進めることにした。



みらかホールディングス株式会社
IT本部インフラサービス部
部長
茂手木 達男氏



みらかホールディングス株式会社
IT本部インフラサービス部
インフラ統合サービス課長
木下 和紀エドワルド氏



みらかホールディングス株式会社
IT本部インフラサービス部
インフラ統合サービス課
担当課長 PMP
元栄 孝行氏



みらかホールディングス株式会社
本社：東京都新宿区西新宿2-1-1
設立：1950年
資本金：91億900万円（2018年9月末現在）
売上高：連結1814億円（2019年3月期）

ソリューション

グループ共通のITインフラとして、データセンター運用にNSSOLのITアウトソーシングサービス「NSFITOS」を選択。NSSOLの標準プロセスを活用して早期サービスインを実現した。約500台のサーバーをabsonneへ移行する。

成果

グループ共通の高品質なITインフラと運用管理業務の効率化を計画通り実現。以前は正社員を含め約30人がサーバーを運用していたが、現在はインフラサービス部の業務委託5人とemerald（エメラルド）に集約できた。

ITインフラを統合して、グループのシナジーを強化する

みらかホールディングスは、ヘルスケア分野で臨床検査を中心に三つの事業分野を展開している。グループ傘下には、受託臨床検査で業界最大手のエスアールエルや、疫学的検査のパイオニアでグローバルに事業展開する富士レリオなどがある。みらかホールディングスは2017年を「第2の創業」と位置付け、中期経営計画「Transform! 2020」を策定。グループシナジーの強化を目指し、持続のための基盤整備を推進中だ。

ITインフラのシェアードサービス化を進める同社にとっての課題は、グループ会社の部門ごとに構築・運用してきた約1000台のサーバーだった。部門間のシステム連携に課題があり、現場の運用負担が大きかった。そこで同社はITインフラを高品質なクラウドおよびデータセンターに集約し、運用をアウトソーシングして効率化する計画を立案した。

NSSOLの標準プロセスを基に、グループITインフラを短期立ち上げ

このITインフラの実現のため、みらかホールディングスは6社のITベンダーの中から日鉄ソリューションズ（以下、NSSOL）をITパートナーに選び、ITアウトソーシングサービス「NSFITOS」を採用した。サーバーをクラウドサービスの「absonne（アブソンヌ）」およびデータセンターに集約し、次世代運用サービス「emerald（エメラルド）」で運用する。既存環境の精査や新インフラの構築における積極的な姿勢、インフラ統合に関する豊富な知見、データセンターでの高品質な運用などが決め手となった。

2018年1月にプロジェクト開始。構築・運用に関するNSSOLの標準プロセスを活用することで、10カ月でグループITインフラ「MiDC（Miraca innovative Data Center）」を運用開始した。現在、約500台のサーバーを対象にMiDCに移行中だ。

ITインフラ運用担当者は30人から5人に集約

以前はIT本部の正社員と業務委託の約30人がサーバー運用に携わっていたが、NSFITOSのアウトソーシング効果により、現在は同社インフラサービス部の5人だけで対応できるようになった。

加えて、absonneでのサーバー運用開始後、システム障害の発生件数が大幅に減少した。軽微な障害が発生した場合でも、emeraldと標準運用プロセスの活用により対応スピードが向上している。

残りの約500台のサーバーについても、今後、監視やバックアップなどの運用管理業務を標準化し、emeraldによる一元管理に向けて順次移行していく計画である。これにより、運用管理業務の効率をさらに高める。

Key to Success

今回のプロジェクトは、グループ内でシナジーを生み出すための業務基盤づくりにおいて一つのマイルストーンとなった。「業務基盤の整備として、これまでにグループ内でPC、オフィスツールの共通化やネットワーク環境の統合を進めてきました。そしてサーバーの運用改善やコスト削減に取り組む段階になり、今回のプロジェクトに至りました」とIT本部インフラサービス部 部長の茂手木達男氏は説明する。

みらかホールディングスがITパートナーの選定で重視したのは、プロジェクトにおける積極的な姿勢だった。「以前は、グループ会社ごとにシステムを構築・運用していたため、どのシステムがどのサーバーで動いていて、どう運用すべきかをグループ会社間で連携できていませんでした。人件費面での効率化の余地も大きかったと思います。この課題を解決するために、まずグループ全体のサーバーの運用実態を調査したうえで標準化し、アウトソーシングするわけですが、このしんどい作業を業務の現場に入って一緒に進めてくれるITパートナーを求めています。NSSOLはこの点において最も積極的であり、データセンターの設備や運用の品質も高かったのでITパートナーに選びました」とIT本部インフラサービス部インフラ統合サービス課担当課長の元栄孝行氏は振り返る。

ITパートナーの選定については、IT本部インフラサービス部インフラ統合サービス課長の木下和紀エドワルド氏も次のように付け加える。「NSSOLは、セキュリティの最新動向や企業情報システムが今後目指すべき方向を見据えたうえで、単に新しいものを取り入れるのではなく、みらかグループにとっ

て最も必要なソリューションを見極めて提案してくれました」

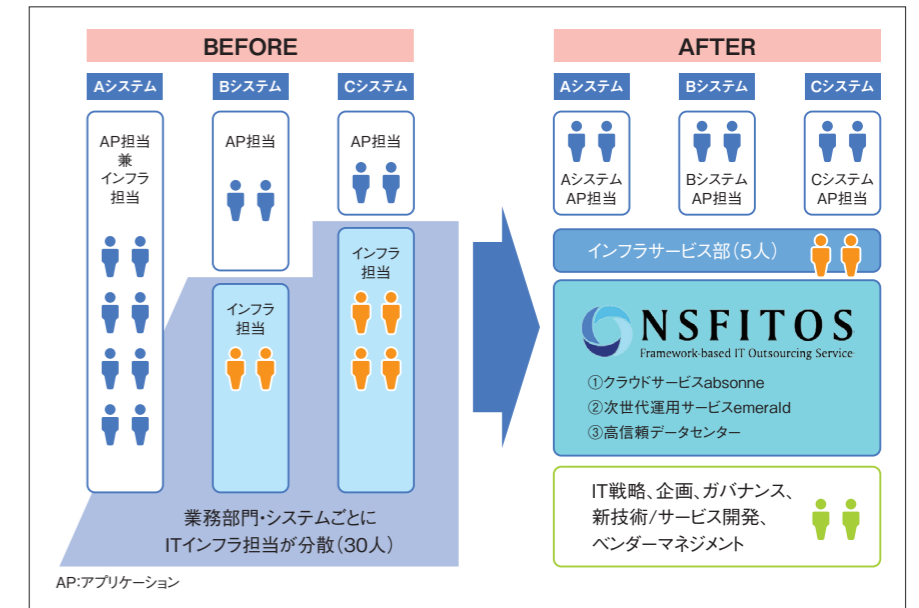
NSSOLの標準プロセスを活用 短期間でのサービスインを実現

非常に苦勞したITインフラのデータセンター運用標準化にはNSSOLのノウハウを活用した。「当初は既存運用の共通部分をまとめ、みらか標準運用プロセスとして再設計するつもりでしたが、想像以上に難しいものでした。実際に調査してみると、運用手順があまりにも違っていたからです。そこで考え方を変えて、NSFITOSの標準プロセスをベースに置きました。もしこの方法に切り替えていなかったら、サービスインの予定に間に合わなかったと思います。現在、移行対象としているサーバーはMiDCに順次移行させています」と元栄氏は語る。

計画通りにMiDCがサービスインすると、システムのトラブルが圧倒的に少なくなった。木下氏は「以前は毎週のように何らかの障害対応に追われていましたが、MiDCでサーバーを運用し始めてからは、システムが停止するようなトラブルは全く発生していません。加えて、システムリソースの調達と運用管理についても、MiDCを利用することで各部門の負担を軽減できました」と成果を明かす。

経営層からの評価も高い。茂手木氏は「アウトソーシングによる効率化やインフラ統合によるサーバー台数の削減を合わせると、十分な投資対効果が出ています。例えばインフラ運用にはグループ全体で正社員と業務委託を含め約30人ほどいましたが、今は5人にまで集約できました。今後は、みらかグループのシェアードサービス提供者として新しいサービスの提供を検討中です。NSSOLには、これからも様々な提案をしてほしい」と語る。

■みらかHDにおけるNSFITOSのアウトソーシング効果



■コアテクノロジー

ITアウトソーシング、クラウドサービス（absonne）、次世代運用サービス（emerald）

■システム概要

●ITアウトソーシングサービス：NSFITOS（エヌエスフィットス）